



## 2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月11日

上場会社名 株式会社CKサンエツ

上場取引所 東

コード番号 5757 URL <https://www.cksanetu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 釣谷 宏行

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理統括部長 (氏名) 松井 大輔

TEL 0766-28-0025

四半期報告書提出予定日 2021年11月11日

配当支払開始予定日

2021年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (新聞記者向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	56,198	101.8	5,816	446.0	5,384		3,277	
2021年3月期第2四半期	27,855	27.8	1,065	47.8	1,040		759	

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 3,708百万円 ( %) 2021年3月期第2四半期 560百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	393.83	
2021年3月期第2四半期	92.57	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	73,885	43,876	52.0	4,569.79
2021年3月期	66,145	40,413	53.3	4,255.95

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 38,405百万円 2021年3月期 35,223百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		30.00		30.00	60.00
2022年3月期		30.00			
2022年3月期(予想)				30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000	59.1	7,500	39.1	6,500		4,000		483.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	8,867,000 株	2021年3月期	8,867,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2022年3月期2Q	462,799 株	2021年3月期	590,599 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期2Q	8,321,541 株	2021年3月期2Q	8,207,088 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、7月22日から4度目の緊急事態宣言が発せられるなど、経済活動は制約されました。7月24日に開会した東京オリンピックも、無観客で開催されました。

中国が、5月1日に粗鋼や鉄鉄の輸入関税をゼロにするるとともに、鋼材輸出に対する増値税の還付を撤廃したため、鉄スクラップや鉄鋼製品の国内価格は軒並み上昇しました。当社グループ（当社及び連結子会社）の主要原材料で国際相場商品である銅の建値は、5月に史上最高値を付け、その後も最高値圏で推移しました。

このような経営環境のもと、当社グループは、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生することによる生産障害のリスクを回避するため、社員に対するワクチンの職域接種を8月1日に完了しました。また、9月21日に当社取締役会は、東京証券取引所が移行を予定している新市場区分について、プライム市場へ移行することを決議しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、伸銅事業の販売量の回復と銅相場の高騰により、売上高は561億98百万円（前年同四半期比101.8%増加）となり、営業利益は58億16百万円（同446.0%増加）となりました。営業外損益として、デリバティブ評価益が1億4百万円、デリバティブ損失が2億72百万円、デリバティブ評価損が4億5百万円発生したため、経常利益は53億84百万円（前年同四半期は経常損失10億40百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は32億77百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失7億59百万円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご確認ください。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### 伸銅

伸銅事業では、前第2四半期連結累計期間に低迷した住宅・建設や、電気・電子機器などの分野での需要が回復したため、販売量は5万6,987トン（前年同四半期比49.7%増加）、売上高は490億46百万円（同121.4%増加）となり、セグメント損益は48億54百万円のセグメント利益（同595.2%増加）となりました。

#### 精密部品

精密部品事業では、前第2四半期連結累計期間に低迷した需要が回復したため、売上高は24億9百万円（前年同四半期比85.0%増加）となり、セグメント損益は1億95百万円のセグメント利益（前年同四半期はセグメント損失2億2百万円）となりました。

#### 配管・鍍金

配管・鍍金事業では、売上高は47億42百万円（前年同四半期比7.8%増加）となり、セグメント損益は5億93百万円（同50.6%増加）のセグメント利益となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は523億71百万円となり、前連結会計年度末に比べ77億64百万円増加しました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が35億51百万円、電子記録債権が20億47百万円、棚卸資産が25億99百万円増加したことによるものであります。固定資産は215億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少しました。この結果、資産合計は738億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ77億40百万円増加しました。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は275億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ42億6百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金が15億57百万円、未払法人税等が14億79百万円増加したことによるものであります。固定負債は24億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ71百万円増加しました。この結果、負債合計は300億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ42億77百万円増加しました。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は438億76百万円となり、前連結会計年度末に比べ34億62百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益が32億77百万円であったことによるものであります。この結果、自己資本比率は52.0%（前連結会計年度末は53.3%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年8月13日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,735	1,728
受取手形及び売掛金	15,709	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	19,261
電子記録債権	7,726	9,774
商品及び製品	5,349	6,212
仕掛品	6,683	7,802
原材料及び貯蔵品	5,560	6,178
その他	1,910	1,498
貸倒引当金	△69	△84
流動資産合計	44,606	52,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,259	12,324
減価償却累計額	△5,757	△5,964
建物及び構築物 (純額)	6,502	6,359
機械装置及び運搬具	24,077	24,819
減価償却累計額	△20,339	△21,130
機械装置及び運搬具 (純額)	3,738	3,688
土地	6,908	6,925
建設仮勘定	227	521
その他	2,259	2,299
減価償却累計額	△1,812	△1,913
その他 (純額)	447	385
有形固定資産合計	17,825	17,880
無形固定資産		
のれん	290	222
ソフトウェア	376	367
ソフトウェア仮勘定	17	44
その他	14	14
無形固定資産合計	698	648
投資その他の資産		
投資有価証券	1,479	1,456
退職給付に係る資産	16	16
繰延税金資産	1,423	1,425
その他	96	87
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	3,014	2,985
固定資産合計	21,538	21,514
資産合計	66,145	73,885

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,922	8,480
短期借入金	12,300	12,500
未払金	217	327
未払費用	893	629
未払法人税等	247	1,726
賞与引当金	1,026	1,039
設備関係支払手形	408	762
その他	1,349	2,106
流動負債合計	23,365	27,572
固定負債		
繰延税金負債	374	372
再評価に係る繰延税金負債	280	280
退職給付に係る負債	1,439	1,502
その他	270	281
固定負債合計	2,365	2,436
負債合計	25,731	30,009
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,756	2,756
資本剰余金	4,351	4,410
利益剰余金	28,381	31,378
自己株式	△820	△692
株主資本合計	34,669	37,852
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	10
土地再評価差額金	565	565
為替換算調整勘定	△36	△22
退職給付に係る調整累計額	0	0
その他の包括利益累計額合計	554	552
非支配株主持分	5,189	5,470
純資産合計	40,413	43,876
負債純資産合計	66,145	73,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	27,855	56,198
売上原価	24,800	48,051
売上総利益	3,054	8,146
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	424	668
給料及び手当	553	565
退職給付費用	14	14
貸倒引当金繰入額	1	14
その他	993	1,067
販売費及び一般管理費合計	1,989	2,330
営業利益	1,065	5,816
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	16	18
デリバティブ評価益	—	104
業務受託料	24	24
雇用調整助成金	119	1
その他	88	114
営業外収益合計	249	265
営業外費用		
支払利息	2	10
為替差損	10	—
デリバティブ損失	857	272
デリバティブ評価損	1,322	405
クレーム補償費	6	1
その他	157	8
営業外費用合計	2,355	697
経常利益又は経常損失(△)	△1,040	5,384
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	—
補助金収入	15	5
特別利益合計	15	5
特別損失		
固定資産除却損	68	2
特別損失合計	68	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,094	5,387
法人税等	△313	1,674
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△780	3,713
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△21	435
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△759	3,277

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△780	3,713
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	222	△18
為替換算調整勘定	△2	14
退職給付に係る調整額	0	△0
その他の包括利益合計	220	△4
四半期包括利益	△560	3,708
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△619	3,275
非支配株主に係る四半期包括利益	59	433

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,094	5,387
減価償却費	844	1,169
のれん償却額	—	67
有形固定資産除却損	68	2
有形固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	—
為替差損益(△は益)	10	△27
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△13	14
賞与引当金の増減額(△は減少)	5	12
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	54	62
受取利息及び受取配当金	△17	△21
支払利息	2	10
雇用調整助成金	△119	△1
売上債権の増減額(△は増加)	4,605	△5,434
棚卸資産の増減額(△は増加)	△381	△2,449
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△66	507
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,108	1,316
未払消費税等の増減額(△は減少)	△220	200
デリバティブ評価損益(△は益)	1,322	300
その他の流動負債の増減額(△は減少)	156	△316
その他	344	165
小計	4,392	969
利息及び配当金の受取額	17	21
利息の支払額	△2	△16
雇用調整助成金の受取額	119	1
法人税等の支払額	△1,206	△193
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,321	782
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,672	△709
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	—	△0
投資有価証券の取得による支出	△184	△4
投資有価証券の売却による収入	0	—
短期貸付金の純増減額(△は増加)	△70	△330
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,927	△1,044

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	4,000	200
自己株式の処分による収入	175	682
自己株式の取得による支出	△88	△290
子会社の自己株式の取得による支出	△4	△82
配当金の支払額	△351	△263
非支配株主への配当金の支払額	△5	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,725	238
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,119	△7
現金及び現金同等物の期首残高	4,292	1,735
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,411	1,728

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

この適用により、一部の売上値引金額の収益認識時点において、従来の売上値引金額の確定時から発生時に変更しております。また、従来は顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する一部の売上取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が66百万円、売上原価が67百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。また、第1四半期連結会計期間の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の当期首残高は17百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書（重要な会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

## (セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	22,154	1,302	4,398	27,855
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,126	25	2	1,154
計	23,281	1,328	4,400	29,010
セグメント利益又は損失(△)	698	△202	394	889

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	889
セグメント間取引消去	400
全社費用	△224
四半期連結損益計算書の営業利益	1,065

## II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	49,044	2,409	4,742	56,197
その他の収益	1	—	—	1
外部顧客への売上高	49,046	2,409	4,742	56,198
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,802	43	4	2,849
計	51,848	2,452	4,747	59,048
セグメント利益	4,854	195	593	5,643

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,643
セグメント間取引消去	411
全社費用	△238
四半期連結損益計算書の営業利益	5,816

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計方針の変更」に記載のとおり、第2四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、第2四半期連結累計期間の「伸銅」の売上高は66百万円減少しております。なお、セグメント利益に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。